

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000015		
法人名	医療法人 正志会		
事業所名	グループホーム ひりゆう		
所在地	大阪市東淀川区大道南1-4-13		
自己評価作成日	平成26年6月26日	評価結果市町村受理日	平成26年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 医療面でのケアが可能で、透析患者やインスリン注射・胃ろうの方の入居もできる。 ② クリニックが併設しており、医療面での相談ができ、診察が必要な方はすぐに対応していただける。 ③ 終身であり、要介護度によっての受け入れ拒否や退所はない。 ④ 同法人の施設との協力体制が整っており、ボランティアの受け入れや、行事も一緒に行っている。 ⑤ 定期的に認知症のケアや介護技術の勉強会を行っている。 ⑥ 地域行事などへの外出機会を増やし、地域交流に向けての取り組みを行っている。 ⑦ 入居者一人ひとりに寄り添い、担当者が外出などの個別ケアに取り組んでいる。 ⑧ 淀川の河川敷の近くで、建物の前は公園があり、夜も静かで環境がとても良い。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人正志会が5年半前に開設されたもので、耐震性のある4階建てのビルの4階に当ホームがある。1階にはリハビリの出来る接骨院、2階には透析センターを兼ねた泌尿器科外来、3階には小規模多機能型居宅介護施設が入っている。更に当ホームにも2名の看護師が常駐し、このビル全体が医療面の充実した介護施設のような印象を受ける。利用者の最大の楽しみの一つである食事については、日曜日と何らかの行事のある時には、利用者の意向を汲み取り、献立や食材の購入および調理まで利用者と一緒に全てをホームで行い、楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ミーティング等で職員同士が話し合い、目標や計画を立てている。 ・利用者に希望を聞きながら、地域の飲食店を利用する等、楽しみの一つとして頂いている。	当ホーム独自で地域密着性も感じるよう考えられた「ひとり一人に行き届いた手を・・・他4ヶ条」を基本理念と決め、ホーム内やパンフレットにも記入し、職員一同その実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者全員が町会へ加入し、ふれあい喫茶や季節ごとの地域行事にも参加している。 ・地域のドッグセラピーも楽しみとされており、他者と交流を持つことが出来る。	利用者全員が町内会に加入しており、地域のイベント(ふれあい喫茶、小学校での盆踊り等)の案内を貰い、参加し地域住民と交流している。ホームとしても各種行事(クリスマス会、流しそうめん等)を開催し、地域住民を招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方々や老人会からの要望を取り入れ、毎年秋にイベントを開催している。 ・法人として社協のメンバーに登録・防災委員の会員となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1回開催しており、利用者の生活状況や近況報告について説明し、助言や意見を頂いている。 ・出来るだけ利用者も参加して頂き、希望や意見を求めている。	偶数月に1度開催されている。行政から地域包括支援センター、地域からは町会長や老人クラブ会長、連合女性部長等に参加して頂き、年6回開催出来ているが、家族の参加は殆んど無い。	運営推進会議については、利用者や家族の意見も直接地域や行政に聞いて頂き、それについての意見や必要な情報を聞く大切な会議であり、今後家族の参加が得られるよう努力する必要があると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村に連絡を取りケアサービスについての助言を頂いている。 ・入居者のサービス提供に生かせるような情報を受けるなどの連携を図っている。	市福祉局高齢者施策部とはよくコンタクトがとれており、色々な相談事によって貰っている。地域包括支援センターとも連携し、情報を入手したり、センター主催の簡単なイベントや介護に関するテーマの講演会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・生命に危険が及ぶ可能性が著しく高い場合以外は身体拘束をしない方針である。 ・身体拘束の勉強会を行い日々の支援に活かせるよう心掛けている。ミーティングでも話し合っている。	毎年、身体拘束の弊害に関する研修を実施し、現在は身体拘束の無いケアが実現出来ている。3階の小規模多機能訪問を希望する利用者には、職員がエレベーターに同乗して訪問し、閉塞感を与えないよう努力している。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の、勉強会を実施している。 ・法人内の接遇委員会で、各施設の代表が報告や意見交換を行ない、それを職場に持ち帰り勉強会等を等を実施し職員で話し合い共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに勉強会等で、職員全員が学べる機会を設けている。 法人の弁護士に相談し、成年後見制度の活用を検討している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 重要事項説明書に記載している内容について説明し、疑問点等の確認をしている。 面談で入居者や家族の希望等を聴いている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 匿名で意見が出やすい入口付近に意見箱を設置しており、苦情窓口の説明も行っている。 定期的に家族面談を行い、意見や要望を聴き、苦情対応委員会で話し合っている。 	利用者からは、入浴時や散歩時等リラックスされている時に意向を聞き出す努力をしている。家族については殆んど来所されない中で、電話で聞き出したり、写真を付けて利用者の現状を報告し、返事かたがた意向や要望を聞き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度ミーティングを行っている。 年に2回、職員の個人面談を行っている。 毎日少しの時間であるが、その日の出勤者でお茶を飲みながら、雑談を含め話し合う時間を設けている。 	毎月1度の職員ミーティングで個別ケアの相談かたがた運営に関する意見も発言して貰っている。年2回、職員に自己評価表や自己目標を記入して貰い管理者が面談し、運営に関する意見も聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回、職員全員が自己評価表を記入し、管理者と面談を行い、施設長への報告を行っている。 職員の意見を取り入れ、常に適切な介助方法等も話し合い検討している。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り職員に応じた研修を受けることができる。また、全職員が順番に研修に参加できるように配慮している。 同法人の医療スタッフに医療についての研修を行って頂いている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> グループホーム連絡会で他施設との情報交換や研修会を行っている。 全国認知症グループホーム協会へ加入している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前には施設内見学と面談を行い、利用者の不安な気持ちを傾聴している。 ・安心して入居していただくためにも、希望者には体験入所を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の話を傾聴し、その方の気持ちになって、その状況に応じた対応が行えるように努めている。 ・情報シートも活用し問題点を明確にし、納得できるサービス提供を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談時に本人と家族との話し合いを行ない、希望を考慮し必要があれば、他施設への申し込みも支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の得意分野での用事を職員と一緒にしたり、その方の趣味や好きなことを一緒に出来る関係を築いている。 ・担当職員を決め、信頼関係が築けるような支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的に会議の機会を設けている。また、面会時はリビングで、職員も一緒に談笑出来るようにも心掛けている。 ・利用者に何か変化があった場合は速やかに家族に連絡し、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人と家族に、昔からの生活歴や情報を聴き取り、これまでの生活の継続を心掛けている。 ・日中行きたいところに職員も同行し、自宅へ帰る等の支援も行っている。	最初の情報シート作成時、本人や家族から馴染みの友人・知人を聞き出し、来訪を歓迎している。又、賀状を出す支援もしている。馴染みの場所としては、自宅や美容院、喫茶店等があり個別に訪問を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士が助け合い、楽しみながら暮らしていけるように、時には職員が間に入り支援することで、良い関係を築いている。 ・一人ひとりの時間も大切に考え、居室で休息していただく時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設や病院へ移る際は面談を行ったり、移る先の関係者に詳しく情報を伝えている。 ・退所後も家族様からの相談を受けたり、他施設の紹介も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者との一対一の時間を設けている。 ・センター方式を使い、職員全員で利用者の想いに少しでも近づけるように努めている。 ・自ら言葉を発することがない入居者は家族と話し、職員同士でも意見交換をしている。	利用前に自宅を訪問し、生活歴や環境を把握し、センター方式の一部を使って本人の情報シートを作り、職員全員で共有している。利用後も現状のケア等で満足しているかどうかを申し送りノート等に記入し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族の協力を得ながら、情報シートを作成して、情報が把握出来るように心掛けている。 ・職員が良いと思う情報シートを取り入れ詳しく記入できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・情報シートやADL表を作成したり、血圧表、水分摂取表を記入することにより、心身状態が把握できる。 ・医療スタッフとの情報交換ノートを活用し、体調管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者や家族の希望を考慮しながら、現状に即したケアプランの立て直しを行っており、面談やモニタリングも行っている。 ・職員の意見も参考にし、必要な時にはカンファレンスを行っている。	最初の情報シートや家族の要望も参考にし、ケアカンファレンスを開いて本人本位のケアプランを立てている。毎月1度はモニタリングを行い、ケアプランの変更性や追加については原則6か月ごとに検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・申し送りで利用者の変化を詳しく伝え、また申し送りノートの記入も行い共有している。 ・職員はあき時間を利用して、個人ファイルに目を通してしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・同法人の他施設や医療スタッフとの連携を密に取り、情報交換や相談、援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の飲食店等を利用し、地域の方との交流を図っている。 ・地域のコーラスや個人のボランティアを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医への受診継続について希望を聴き必要に応じて受診介助を行っている。 ・一週間に一度、主治医の往診があり、急変時にはすぐ対応できる体制が整っている。	従来のかかりつけ医に受診を継続する場合は家族がつきそっている。医療内容により、家族を伴って職員が同行する場合もある。救急の場合は家族の希望を聞き、搬送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・法人のクリニックの医師・看護師との連携を取り、常に相談でき健康管理や体調不良時等適切な指導を受けられる。 ・看護連絡ノートも活用し利用者の情報を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者が入院した際は、家族や病院関係者との連絡を取り情報交換を行っている。 ・介護サマリーを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・医療ケア管理シートを作成して、入居時に話し合う。段階的にもその都度利用者、家族と面談し話し合っている。 ・定期的に職員の研修を行い終末期についての理解や意識の統一を図っている。	入居時に方針を説明し、同意を貰っている。重度化した場合は、医師、家族とその都度話し合いをし、家族の希望に沿う支援を行っている。現在、看取り経験は無いが、将来は取り組むべく職員には終末期研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署に来ていただき救命講習を受講し、避難訓練を行っている。また、マニュアルを参考に、定期的に勉強会も行っている。・利用者の状況に応じ、医師、看護師とその都度協議し検討したうえで対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の指導で定期的に避難訓練を行っている。地域の方へ声かけも行っている。 ・夜間は職員が一人になるため、夜間体制の避難訓練を行ない、他職員の応援体制も話し合っている。	年2回、避難訓練を行っている。消防署参加の折は、避難方法や消火器の扱い等の指導を受けている。運営推進会議に於いても協力を呼びかけている。	消防署の避難訓練には、地域住民の方々に参加を呼びかけると共に、事業所内に於いては、災害発生時を想定した自主訓練を重ねることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇委員会もあり、利用者への言葉遣いに気を配り、勉強会も行っている。職員同士の言葉遣いにも気を付け、感謝を忘れず対応している。 ・個人情報の資料は金庫に保管している。 	利用者の誇りを傷つけないよう言葉かけに気を配り、職員が気が付けばお互いに注意し合うようにしている。職員同士が信頼しあったチームワーク作りが出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ができる限り時間を作り、寄り添い利用者の思いや希望を聴き出している。 ・意思表示できない方は日々ケアの中で注意し、表情の変化を観察し、職員同士でも話し合っている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時間から入床時間まで一人ひとりのペースを大切に支援し見守っている。 ・時間がかかってもその方の好きな事や、得意な事ができるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ服等はご自身で選んでいただき、本人の好みや意向に配慮している。 ・必要に応じて自宅へ戻り、本人の思い通りに身の回りも物を持って来る事が出来るよう支援している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日や誕生日会などの行事には好きなメニューと一緒に考え、出来ることを手伝って頂いている。 ・食事の盛り付けや、片付を手伝って頂いている。 	利用者にとって大きな楽しみの一つである食事には工夫をこらし、喜んでもらえるよう努力している。職員も同じものを食べ、場を和ませている。日曜日や行事には好みを聞いてメニューを決め、買い物や料理にも参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体重管理を行い、体重の変化がある方は、医師・看護師の指示をいただき、栄養のバランスに気を配っている。 ・食事摂取量や水分摂取量は個人記録に記入し管理している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時や夕食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。 ・必要があれば歯科往診で医師の指導も受けている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつの使用の必要性については職員で話し合っている。 ・個人の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導・オムツ交換を行っている。 ・夜間の巡視時にも声かけを行っている。 	排泄チェック表により、パターンを把握して誘導を行っている。入院などにより、オムツ使用になった利用者もホームに帰ってからは元通りの排泄習慣を取り戻している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給をまめに行い、水分量の管理を行っている。また、毎日無理のない程度で、体操を行っている。 ・便秘時には医師や看護師の指示の元、排便コントロールを行い、改善に努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調や希望に添えるように、時間や回数を考慮している。失禁時にはシャワー浴を行っている。 ・入浴剤を使用や好き音楽を流したりと、楽しんで入浴していただけるよう工夫している。 	週3回を基本としているが、利用者の意向も尊重しながら、入浴の介助を進めている。ゆず湯にしたり、話題をみつけて話しかけをして、楽しんで入浴してもらえるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握して、必要な休息や睡眠が取れるように支援している。 ・午後からは、皆さんが休息出来る環境を整えているが、個人の自由としている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・内服セット箱に薬をセットして、服薬時も声を出してチェックを行い誤薬を防いでいる。 ・服薬表を綴じており、職員は使用している薬について理解に努め、服薬の変更時は必ず申し送り、ノートにも記入している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の言葉から、一人ひとりの喜びや楽しみ事を引き出し、支援できる環境を整え、外出を行っている。 ・買い物に出かけ楽しみとされている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は散歩に出かけ気分転換を図っている。地域のふれあい喫茶や季節ごとの行事にも参加している。 ・季節を感じるための外出レクを企画している。また、希望に沿った外食を行っている。 ・家族の協力により定期的に外泊される。 	日常的には担当のスタッフが散歩コースを決めて、近くの神社や公園に出かけている。地域の行事に参加したり、外食や買い物で外出の機会も作っている。法人のバスを利用して遠出をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で財布を持ち、お金を所持されている方もおられる。 ・買い物希望される時は職員が付き添い出かけている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望される時は、電話の介助を行っている。携帯電話を持っておられる方もいる。 ・毎年年賀状の介助を行っている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは季節を感じられるような切り絵や飾り付けをし、棚には人形やぬいぐるみを並べ、入居者がいつでも、触れるようにしている。居心地良く過ごせるようにテレビの前にはソファを配置し、入居者が自然に集まる空間となっている。 	リビングは広くて明るく寛げる雰囲気である。時にはテーブルの配置を変えて気分を変えている。ソファにかけ、テレビを楽しむ利用者や、将棋盤を挟んで楽しむ男性利用者の姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングで気の合った利用者同士歓談し、オセロや将棋をされることもある。 ・午後からは居室で一人で過ごして頂ける時間を設けている。 ・希望者はベランダで喫煙されている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は昔からの馴染みの物を飾り、クローゼット内にも好きな衣類を入れ、入居者が最も心休まる空間となるように工夫している。 ・なるべく自宅で使っていた家具等を持ってきていただくようお願いしている。 	居室は明るくて清潔に保たれている。利用者が使い易いように家具その他が配置されている。使い慣れた家具が持ち込まれ、写真などが飾られて、居心地よく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりが多く設置されており、転倒を防止し安全に暮らせるように工夫している。 ・各居室に入り口には自分の居室であることが分かるように飾り等をして工夫している。 		